

Shinsaibashi Reform

Magazine

vol.5

The future
of
the
fashion



モダン・サファリ

The future of the fashion VOL.5
SHIPS MENS CREATIVE ADVISER

鈴木 晴生氏

これからファッションは
どう深化してゆくのか？

様々な角度からその未来を探る

The future of the fashion

前回に引き続き、今回もシップスのメンズクリエイティブ
アドバイザーを務める鈴木晴生氏にご享受頂きました。

「VAN」、「テイジンメンズショップ」、「エーボンハウス」、
「メッサーフリッツ」、「グレンオーバー」と時代を駆け巡り、
96年から「SHIPS」のメンズ企画部長に就任。2006
年には「ワインレーベル フォー シップス」をスタートさせる。
執行役員を経て、現在は同社の顧問を務め、多くの
企画で指揮を執る。

多くの服に袖を通し、時代を見つめてきた同氏が考える
現代のスタイルに着目します。





鈴木__今季は全体を通してコロニアルなテイストが重要なテーマになっていると前回お話ししましたが、今回はなかでも注目していただきたいアイテムとしてサファリジャケットに着目します。こちらも前回同様、従来のイメージに捉われない現代的なスタイルを提案します。

Q サファリジャケットは確かに新鮮だと思いますが、お洒落に着るのが難しいアイテムではないかと思うのですが・・・。

鈴木__現在、主流になっているジャケットはエレガントに魅せるためにポケットをなくす傾向にあります。しかし服をツールとして捉えた場合、サファリジャケットには多くのポケットが付いていますから物を多く収納できるから便利です。特に外で仕事をする人にとって、サファリジャケットはワークウエアの基本形ですからとても使いやすいと思うのです。そうした機能美をお洒落着として活かせば、テーラードのジャケットを着るよりも数段面白いと思います。特に夏場、タイを外したスタイルは首元が寂しくなります。半袖のシャツ一枚じゃ難ですからそのうえに従来のアンコンジャケットを引っ掛けるのではなく、サファリを選ぶと印象が男っぽく、新鮮なスタイルになります。とはいえ、一昔前まではこうしたワークジャケットは作業服の延長にあるのでは?と思われていました。問題はフォルムにあるのです。そこで前提としてスリムで現代的なフィット感にリフォームすると、印象は全く変わります。

Q なるほど現代的なプロポーションにリフォームするのがポイントですね。では着こなしはどうしましょう？

鈴木__最初に紹介するのは「アバクロンビー&フィッチ」の1974年製のサファリジャケットです。シャツはダンガリー素材のウエスタンで「リーバイス」。ネックにはマドラスのハンカチをバンダナ風にあしらひ、パンツはネイビーにオーバーダイ加工を施したイタリア「モノクロム」のものを合わせました。

Q ブリーチした色合いが新しいですね。

鈴木__ブルーのパンツは業界的にはボリュームゾーンですが、ダークネイビーだとジャケットとのコントラストが強すぎますから印象が重くなります。ですからこのくらいのブリーチ感がちょうどいいですね。着こなしの全体的なイメージは映画「アニーホール」のマンハッタンでのワンシーン。ウッディ・アレンの友人の着こなしが思い起こされます。もう少し違う角度で例えるならイヴ・サンローランをはじめとしたデザイナーが提案した1970~80年代のモダンなエッセンス。そうした一連のアーカイブを僕のフィルターを通して今風に表現したという感じでしょうか。





鈴木__次はイギリス陸軍のヴィンテージで、色は今年の流行色でもあるビスケットタン。前出のサファリジャケットとは違って、英国のミリタリー物は着丈が短くて動きやすく、ウエストはしっかりとマークされ、バックベルトが施されています。つまりシェイプアップしたスタイ

ルになっています。前出のものはシャツ・ジャケットの延長線上にあるものですからリゾート感があります。しかしこちらは完全なミリタリー物ですから匂いが全く違います。そうした出自の特徴を生かして考えると着こなしもスカーフやシャツじゃつまらないので、黒のニットをインナーにあしらいました。

Q 斬新な色合わせですね。

鈴木__全身をアースカラーでまとめると野暮ったい印象になることがありますから、インナーに黒を取り入れて、コントラストをつけてゆくと印象がぐっとモダンになります。インナーはシンプルにハイネックでスッキリと、首元に空きをつくらないところがポイントです。写真では見えにくいですが、ここでも先ほどのハンカチをバンダナ風にあしらいました。パンツはカーキーのワイドパンツで「ダブル アール エル」のもの。裾幅が24~5センチくらいのワイドなシルエットが程よくモダンに魅せます。靴はコロナルなイメージを彷彿とさせるレザーのメッシュが大人ならでの選択です。



鈴木__最後はUSアーミーのミリタリーのサファリ。こちらもヴィンテージで、色はサンドベージュです。シャツはベースカラーがついた薄いブルーのレギュラーカラーで、小紋のタイを合わせました。パンツは薄いブルーのチノーズ。靴はグレンソンのビスケット色のスエードを合わせました。

Q タイドアップもいいですね!!

鈴木__このジャケットは共布のベルトがウエストについていますから、これをぎゅっと締めると表情が変わってまた格好がいいのです。実はこのジャケットも随分とリフォームを施しました。肩幅や身幅もそうですが、ミリタリージャケットは座った姿勢でもポケットから物の出し入れがし易いように計算されています。ですからポケット位置が全体的に低いのです。逆にファッションとしてのジャケットはその限りではありません。そこでポケットの位置を全体的に上に持ち上げで人の顔のように中心にグッと固めるリフォームを施しました。そうすることでポケットのデザインが強調されるのです。

Q なるほど!!

鈴木__素材はベトナム戦争時に使っていたものをそのままにしています。というのもポプリンみたいな素材じゃつまらないでしょ。そもそもミリタリージャケットは本物の良さがある。つまり今のものになりきっていちゃダメなのです。機能的に完成されたものにファッション的な要素を足して行くから面白いのです。単純に新しいものを買って着るだけではなく、ヴィンテージのミリタリーウエアをファッションアイテムに近づけるということ。完成されたミルスペックは実に素晴らしいのですが、ファッションとして着るには何か足りない。ですからリフォームして着る。それが今最も心を揺るがします。

Q それはデザイナーの仕事に程近いですね。

鈴木__確かにそうかもしれませんね。もちろん新しいものもいいのですが、昔は選択肢が少なかったから、色々工夫して着ることが楽しかったのですが、現代は製品が完成されすぎていますから逆に物足りなさを感じるのです。また、現在のマーケットは似通った商品セレクトで、多く

のショップが同質化しています。ですから逆にタンスの中で眠っている昔のものを現代的にリフォームするのが面白い時代になってきていると言えます。何かイメージする写真を携えて心齋橋リフォームさんへ持って行って相談すると面白いんじゃないですか？リフォームする側の意見も聞きつつ、段階を経て直していけば失敗も少なくなります。僕が今一番興味があるのはそこですね。ちょっと高度な楽しみ方かもしれませんが。とはいえ、闇雲に古い物を持って行ってリフォームすればいいということではありません。今求められている物、今日の風の中にあることが不可欠です。またサステイナブルが叫ばれている世の中ですから古着を活用するのもいいでしょうね。何れにしても映画館に新しい映画を見に行くようなトキメキがあるのです。そんな段階を経て完成したアウターに合うワードローブはSHIPSでも買えると思います。是非ご活用ください。

The future of the fashion

斬新な提案でしたね。
いずれにしても大人ならではの
遊びを秘めたスタイリングの数々は
圧巻でした。

次号は鈴木晴生氏が提案する初秋のスタイル、
晩夏から初秋にかけてのスタイリングを
お届けします。どうぞお楽しみに。

取材協力

SHIPS シップス 銀座店

TEL : 03-3564-5547

URL : www.shipsltd.co.jp